

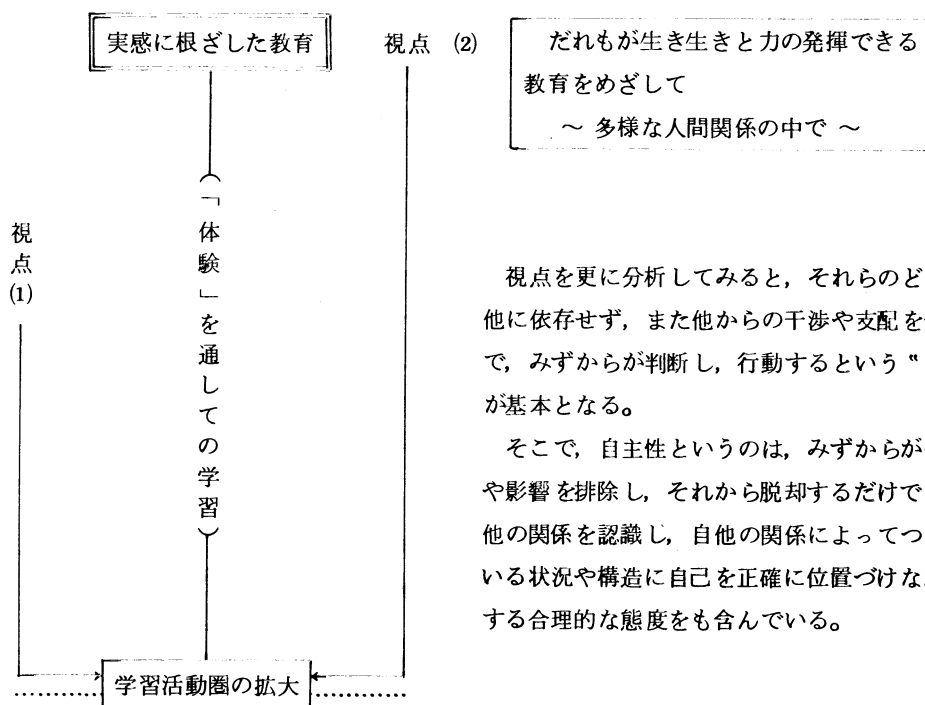
実感に根ざした教育をめざして

—— 漢字の読み書きテストの一例 ——

足利市立西小学校 家 住 伸 司

1 基本的な考え方〈西小学校教育計画をうけて〉 ※ 一部抜粋

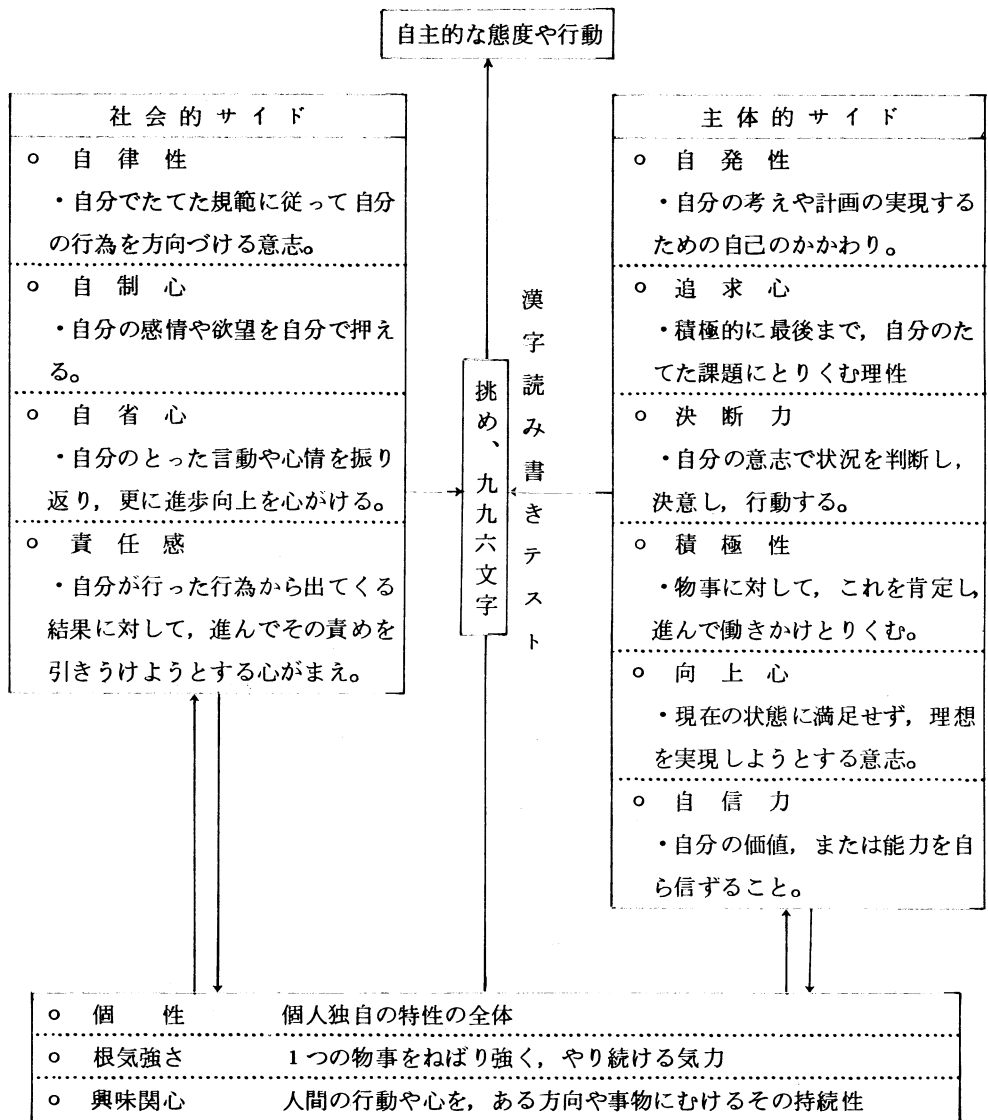
- (1) 「実感に根ざした教育」全体構想の実現をめざし、視点“だれもが生き生きと力の発揮できる教育をめざして”の、特に直接的な教育の場ととらえ、主として体験的な学習を行う。
- (2) 「実感に根ざした教育」実現の全体構想とのかかわり ※ 一部抜粋



視点を更に分析してみると、それらのどれもが、他に依存せず、また他からの干渉や支配を受けないで、みずからが判断し、行動するという“自主性”が基本となる。

そこで、自主性というのは、みずからが他の束縛や影響を排除し、それから脱却するだけでなく、自他の関係を認識し、自他の関係によってつくられている状況や構造に自己を正確に位置づけながら行動する合理的な態度をも含んでいる。

(3) 自主的な行動の枠組



2 テストのねらい —自主的な態度や行動をめざして特に—

(1) 興味関心をもたせる

ひとりひとりを生かす学級経営で、どの子もかけがえのない子どもである。だからこそ、ひとりひとりの子どもが学校にすることを楽しみ、積極的に活動できることは教師の願いであり、課せられた使命でもある。そこで、あまり形式ばった指導より、伸び伸びとした児童の自発的活動を期待し、学習への興味、関心をもつ契機をつくってやるのが大切だと考えた。

そのためには、学校と家庭とが緊密な連携（父母の言葉欄）を保ち、劣等感を排除しひとつひ

とつ成功感を味わわせながら向上心を育てる。

(2) 自信を持たせる。

学級経営の基本方針として、ひとりひとりを伸ばすための場と機会を用意し、自分の潜在能力を発揮させる体験を多く持たせるような工夫が必要である。

やればできるのに、やろうとしない子が、友だちから認められ自分にも優れた力があるという自信を抱く場や機会とする。要は、いかに教師、児童の相互信頼を育て、毎日の生活に充実感、満足感を与えるかという教師の姿勢が大切であると考ええる。

(3) 自律性を育くむ

子どもに目標を持たせ、自己評価をさせることから自己を省み、深く物事を見つめるため、反省の度も深まり今後の自分の対処を考える場の設定とする。

「不親切の親切」すなわち、突き放して危機感を味わわせたり、他の人の前で賞揚してやる。

(4) 自制心を育くむ

自我意識、自己中心的な考えが強く、客観的に自己を見つめることができない子どもが多い。だからこそ、個人指導（テスト結果による）を通して、自己中心的な行動の是正とあわせて、長所を認め伸ばすことによって、正しい方向を打ち出してやりたい。

3 テスト開始前の子どもの意欲づくり

(1) 進出漢字指導の折、突然、児童に早覚えゲームと称しテストを告げる。

T 今から10分後に、この進出漢字を使って10題テストをやってみようか。誰が何題、覚えられるかな？

A 3題/4題などと口々に言う。（しかし、全部と答える児童は一人もいない。）

T 人間の能力って、どの位あるか挑んでみようか。

— 10分間の練習時間をおく —

T 練習やめ!! 教科書、ノートを閉じてください。（用紙の配布）

A （いつもにない真剣な表情で歓声をあげる）

T （黒板に、練習順序通り設問する）

A （設問を追いながら、口々に次の問題を口走る）

T （板書が終了次第） 始め!!

A （今までのテストに比べ、忘れない内にとあせるのか必死な形相でとりくむ）

T （ころをみはからって） やめ!! 隣の席の人と交換し答え合わせをして下さい。

A やったあ！（全部できたあなどの声で、教室が一斉にはなやぐ）

T （結果を挙手させ、板書する。） 43名対象

100点	31名	73%	} 学級平均点 93.3点
90点	4名	9%	
80点	6名	14%	
40点	1名	2%	
30点	1名	2%	

(2) テスト結果の板書と子どもの反応

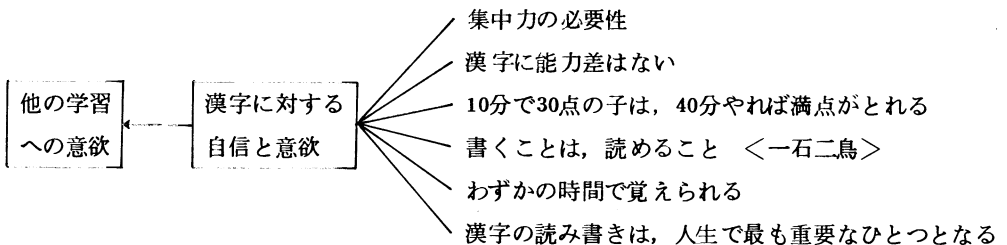
○問 「初めて習う漢字10題に対し、たったの10分間で挑んだ結果を見て何を感じるか。」

- ・ 平均点が高い。
- ◎ たった10分の練習なのに満点がとれた。
- ・ 夢中でやった。
- ・ 本気になれた。
- ・ 漢字テストで満点を取ったのは初めてのことなので、とてもうれしい。
- ・ やる気になると、こんなにできるものなのか。
- ◎ 自分がこんなにできるとは、思わなかった。

—— 知能が低い子、やる気のなかった子ほど驚きや感動が強い——

(3) 子どもの感動を、学級の生活に対する意欲へ <やる気の喚起>

※ 漢字は、能力ではなく本人のやる気で覚えられること。



(4) 家でもできることへの示唆（同様テストを繰り返す）

- 環境をかえて
 - ラジオのボリュームをあげて
 - 子どもの声や自動車の騒音（テープ）の中で

4 テストの実施方法

※「挑め， 996文字」 小学校での新出漢字996文字を使った熟語にカナをふったプリント綴を一人一人に配布する。

- (1) テスト日 毎月曜日～金曜日の朝の自習時間の15分とする。
- (2) 問題構成 1～10は書きのテスト， 11～20は読みのテスト（次日は， 本日の読みの問題が書きのテストになるようにローテーション化する。）
- (3) 出題 1年生から5年生までの進出順に20問ずつ出題する。なお， 出題は， 前日放課後に係り児童がセンテンス板を使い予告をする。
- (4) 解答・採点 係り児童の指示に従ってテストをやる。終了したら， センテンス板の裏側の答をみて一斉に自分で評価をし， 得点を報告書に記入する。
- (5) 報告書 毎週， 金曜日テスト終了後に， 報告用紙（一週間のテストの正答数を記載されたもの）を係が集め， 教師に提出する。
- (6) 順位のきまり
 - ・ 同点の場合は， 並列ではあるが出席番号の若い者が上の順で並べる。
 - ・ 欠席不参加は， 学級平均の対象としないが順列に加え， 満点者は満点を認める。
- (7) 集計票の作成

教師は， 提出された報告書をもとに， 毎金曜日に順列をつくり学級の平均点を算出し記載し， 本人の順位や努力の様子を朱書しプリントを作成し， 家庭に持ち帰らせる。そして， 父母の言葉を書き添えてもらい， 教師， 父母， 子どもが一体となって挑んでいることを認識させる。必要があれば折にふれ， 父母の子どもに対する期待や喜びを紹介し， 子どもたちの意欲向上をはかる。
- (8) 集計票の保管

個人綴りへ保管をさせる。
- (9) 留意点

テスト開始後は， 宿題は原則としてださない。漢字の練習については， 本人の自主性にすべて任せ強制はしない。
- (10) その他

報告書， 集計票は別紙表1， 表2下記へ

※ 表1 報告書

氏名	月	火	水	木	金	合計点

- ① テスト後， 自己採点をして， その得点を記入する。
- ② 毎金曜日に， 週合計得点を記入し， 切り離し係り児童に提出する。
- ③ 記入は， 下から使い一枚ずつ切り離せるように配慮する。

※ 表2 集計票

漢字・読みがなテスト集計票 第17(9)月(4)週 氏名()

順位	日曜					計		
	21 月	22 火	23 水	24 木	25 金			
1	20	20		20	20	80	○ テストのねらい 実感に根ざした教育の一環として 友だちのがんばりを見ての発奮 自分で本気で挑んで見て 先週と今週の学級平均を見て 実感から旅だち、実感としての自信を 自ら学ぶ、主体性の確立	
1	20	20		20	20	80		
1	20	20		20	20	80		
1	20	20		20	20	80		
1	20	20		20	20	80		
1	20	20		20	20	80		
1	20	20		20	20	80		
1	20	20		20	20	80		
1	20	20	秋	20	20	80		
1	20	20		20	20	80		○ テストの方法 ・月～金曜まで毎朝、漢字の読みと書きの20題とし、1週間で100点とする。 ・出題者は前日、出題予告をし、練習の有無は本人に任ねる。 ・欠席者は、学級平均点の対象とはしないが、順位には入れ満点も認める。
1	20	20	分	20	20	80		
1	20	20		20	20	80		
1	20	20	の	20	20	80		
1	20	20		20	20	80		
1	20	20	日	20	20	80		
1	20	20		20	20	80		
1	20	20		20	20	80		
1	20	20		20	20	80		
1	20	20		20	20	80		
1	20	20		20	20	80	学級平均点	3200÷40÷80=100
1	20	20		20	20	80	前回までの最高	99.8 (第3回)
1	20	20		20	20	80	○ 父母の言葉 (子どもへ・教師へ)	
1	20	20		20	20	80		
1	20	20		20	20	80		
1	20	20		20	20	80		
1	20	20		20	20	80		
1	20	20		20	20	80		
42	20	20		欠	20	60		
43	欠	20		欠	20	40		

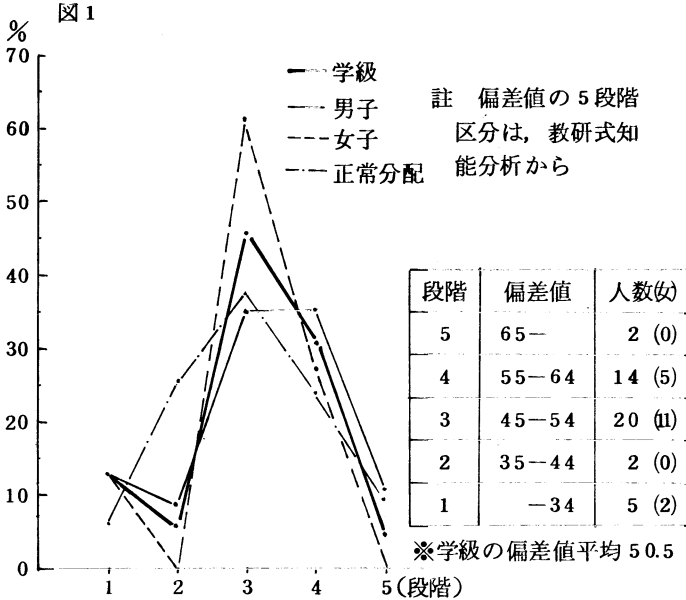
ついにやってくれました。見事!! 全員満点です。

すばらしい集中力・そして気迫です。 —ばんざーい—

安心して、内地留学してきます。今後とも見守ってやってください。

教師から気づいた点を一言書く。

5 知能偏差値の分布 (調査人員 男子25, 女子18, 計43名)



考察

(1) 男子においては、2の段階が極端に少なく右寄りとなり、平均高い知能を持つ集団であり、いわゆるやりやすい学級といえる。

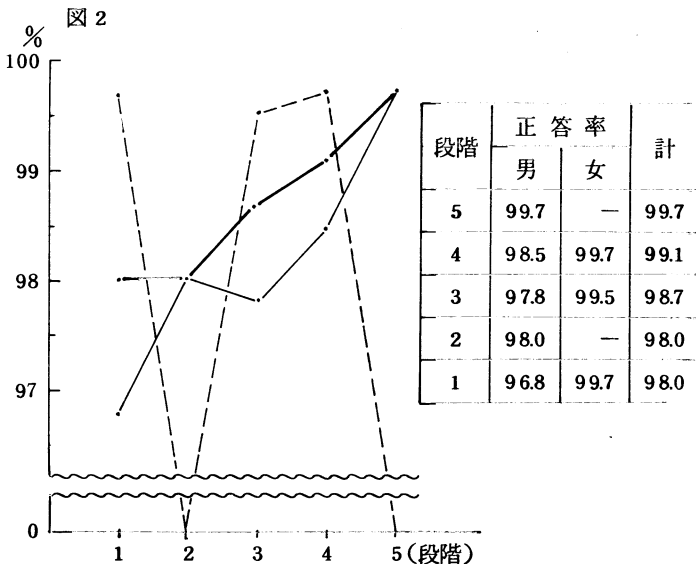
(2) 女子においては、普通と思われる知能の持ち主が多く、極めて高い知能や低い知能を持つ子が少ない。

(3) 学級全体となると、3を境にやや右寄りの傾向が強くなり、比較的知能に恵まれている学級集団であるといえる。

級集団であるといえる。

(4) このデータから見ても、興味関心を持たせることにより、学級内が学習意欲に溢れた時、活気に満ちた学習活動が期待できそうである。

6 5段階偏差値における正答率の比較 (17週を対象)



考察

図を見れば、一目瞭然ではあるが、知能の高低による正答率は段階が低くなる程落ちている。

しかし、段階別の人数比から考えると、3が圧倒的に多い学級集団であることから単なる評価はくたせないであろう。そればかりか、段階5(2名)と1(5名)の正答率の差が1.7であることを具体的に考えると、1の能力しかもっていない子であっても一週

間に100分の2題しか誤答がないということである。しかも、17週間の平均誤答がである。

このことから考えると、学級のムードと学習（ここでは、漢字テストであるが）の成立度にはとてつもなく大きな関連があると思われる。また、努力と結果は一連の持続性を物がたっているようにも思われる。

7 知能偏差値段階別正答率一覧表

(1) 男子一覧

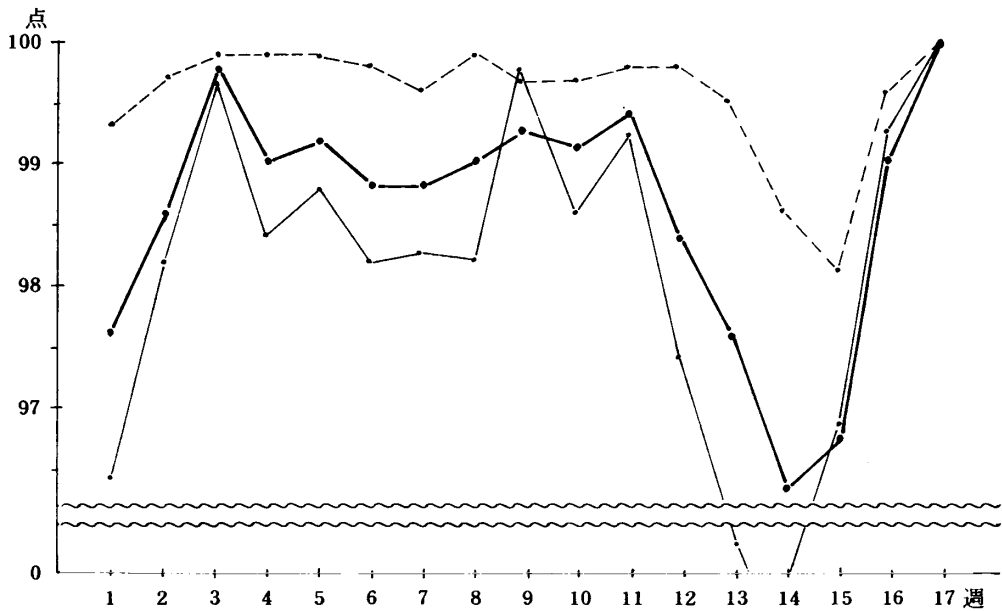
回数	満点																	誤答数計	正答率	知能能力別正答率	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17				
氏名	期間	4	4	5	5	5	5	6	8	15	22	29	7	13	9	7	14	21			
	SS	20	27	4	11	18	25	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1			
	SS	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			
	AA	24	5	5	5	5	5	5	12	19	26	7	10	17	4	11	18	25			
	↓																				
S・H	5	72											1	1					2	99.9	99.7%
I・H		67	3	1		1	1		1		1						1		9	99.4	
E・Y		64	3			1			4			1	1	1					11	99.3	
M・K		61	11	1					1	1		4	1		9	14	15	1	58	96.3	
T・T		#		1					1		1	1		2	3	1		1	11	99.3	
H・M	4	59																	0	100	98.5%
S・S		56					1												1	99.9	
K・T		#	3	2	1											1			7	99.6	
K・N		#	1								1					1			3	99.8	
T・H		#	10	1		2		4	9	6		5	4	8	25	9	9	1	93	94.0	
Y・I	3	55	3	3			1		2						12		1	22	98.6	97.8%	
Y・N		53	4	1	2	11	3	11	1	14				27	22	21	25		143		90.8
K・K		52	5	2						1	1	6			10	12	10	3	50		96.8
K・H		#																	0		100
Y・M		#	9	3	1	1	5	3		1	1	1	3	11	2	3		5	49		96.9
K・K	3	51																	0	100	98.0%
Y・T		#	1	1		1		1	1	2				1		1			9	99.4	
K・M		#	3			1	1		3	2			4	5	12	7	4	3	45	97.1	
K・A		49						1								4			5	99.7	
K・W		48		1						2						1			4	99.7	
T・H	2	44	3			2	1	1	1						1				9	99.4	98.0%
T・T		#	10	3			3	11	16					1	1	10			55	96.5	
S・U	1	42	7	5		1		1	1	1		1				3			20	98.7	96.8%
A・A		41	3			2		1					1	1	2	2			12	99.2	
M・S		27	12	11	1	16	14	3	7	9	1	16	7	7	7	9	4	1	125	92.0	

(2) 女子一覧

回数	満点																	誤答数計	正答率	知能能力別正答率	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17				
氏名	4 / 20 24	4 / 27 5 / 1	5 / 4 5 / 8	5 / 11 5 / 15	5 / 18 5 / 22	5 / 25 5 / 29	6 / 1 5	8 12	15 19	22 26	29 7 / 3	7 / 6 10	13 17	9 / 1 4	7 11	14 18	21 25				
J・K	60												1						1	99.9	99.7%
K・O	56					1			1			1							3	99.8	
M・K	4	#	1				3		1					2	5	1			13	99.2	
N・S	#																		0	100	
Y・W	55	2		1									1		3				7	99.6	
E・A	54					2	2		4	1	2	2	3	9		5			30	98.1	99.5%
K・E	52																		0	100	
M・T	#	1			1									1	9				12	99.2	
K・Y	#									1					2				3	99.8	
E・S	51	5					1	1		2		1	5						15	99.0	
Y・N	3	49	1												1				2	99.9	
T・N	48																		0	100	
K・Y	#																		0	100	
T・K	47	3	1				1					1		3	6				15	99.0	
A・K	#							1					1						2	99.9	
R・K	45	1	2		1								1						5	99.7	
T・K	1	36	2							1					8				11	99.3	
S・M		35																	0	100	
(満点者数)		11	16	16	18	16	16	14	17	16	14	16	16	11	13	11	16	18			
女子平均点		61.1	88.9	88.9	100	88.9	88.9	77.8	94.4	88.9	77.8	88.9	88.9	61.1	72.2	61.1	88.9	100	619	99.6	
↑比較		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+			+	
学級平均点		97.6	98.6	99.8	99	99.2	98.8	98.8	99	99.3	99.1	99.4	98.4	97.6	96.3	96.7	99	100	862	98.7	

8 6カ月(17週)間の学級平均点の推移

※ (1) 推移グラフは別紙へ



(2) 学級平均得点の男女比較

回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
男子平均	96.4	98.2	99.7	98.4	98.8	98.2	98.3	98.2	99.8	98.6	99.2	97.4	96.2	95.5	96.8	99.2	100
比較	-	-	-	-	-	-	-	-	+	-	-	-	-	-	+	+	
学級平均	97.6	98.6	99.8	99.0	99.2	98.8	98.8	99.0	99.3	99.1	99.4	98.4	97.6	96.3	96.7	99.0	100
比較	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
女子平均	99.3	99.7	99.9	99.9	99.9	99.8	99.6	99.9	99.7	99.7	99.8	99.8	99.5	98.6	98.1	99.6	100

考察

- ① 男女の平均点の比較においては、そのほとんどが女子が男子を上まわっている。これは、こつこつと努力するという性差なのだろうか。
- ② 13, 14回が極端に低くなっているのは、まだ5年生として未習漢字のために覚えづらいということが考えられる。

9 漢字テストに対する児童の反応

(1) 意欲の比較

	毎日は嫌だと思ふ	やりたいと思ふ	練習をするか
テストをやると聞いたとき	34名(79%)	9名(21%)	6名(14%)
10週終了現在	18名(42%)	25名(58%)	42名(98%)

(2) 考察

- ① テストに対する子どもたちの抵抗も、週を追うごとにやわらぎ、自分たちの毎日の生活の中に定着してきているといえる。
- ② 漢字練習も日を追うごとに日課となってきた。これは、出題学年が上級になっていくこととの関連もあると思う。しかし、友だちとの比較においての発奮や、やればできるという自信も裏付けとしてあることも事実である。

(3) テスト開始前と現在の子どもたちの、物の見方や取り組み方に対する意識の変容

<自由記述から>

- ① 家人に言われずにも、自分から進んで学習をするようになった。 28名 <65%>
 - ② 負けると、自分に対してくやしいと思うようになった。 8名 <19%>
 - ③ やれば、自分にもできるということがわかった。 8名 <19%>
 - ④ 漢字練習が楽しくなり、日記中の漢字が増えている。 8名 <19%>
 - ⑤ 物事に対して、あきらめることがなくなった。 3名 <7%>
 - ⑥ 物事に対して、集中できるようになった。 6名 <14%>
- その他、100点がとれる。勉強が好きになった。学校が楽しくなった etc

(4) 集計票に対して、どう思うか。(順位がつくこと)

- ① 順位があるので、自分のがんばり具合がわかってよい。 36名 <84%>
- ② 順位があると、まちがえた時いやな気がする。 7名 <16%>

(5) 父母の言葉を見て何を感じるか。

- ① 自分を励ましてくれるので楽しみにしている。 35名 <81%>
 - ② しかられる材料になるのでいやだ。 6名 <14%>
- その他、母がめんどうくさがる。何も感じない etc

(6) なぜ、家でテストに備えて練習するようになったか。

- ① これからの自分のためになる 12名 <28%>
- ② 満点をとりたから 11名 <26%>
- ③ 漢字を覚えたい 6名 <14%>

- ④努力の結果を知りたい。 4名 < 9% >
- ⑤できないと恥ずかしい。 6名 < 14% >
- ⑥家の人にやれといわれるから。 4名 < 9% >

10 子どもの姿容に対する父母の意識 < 86%回収 >

- 毎日、毎週、子どもたちと先生の頑張りには頭がさがります。自分から、学習をしなければという気持ちが日増しに強くなっているのが、手にとるようにわかります。 女児 母
- アンケートから見て、やればできるという実感を子どもたち自身が持ってきたことがはっきりわかり、本当に嬉しく思います。また、私たち親の方にも、子どものファイトが伝わり、子どもをよく見るようになったと思います。そのおかげで、娘がかなり勝気であることを発見しました。テストの自己採点も、とても意義のあることと思います。 女児 母
- 短期間にこれだけ向上のきざしが見えてきたことは、とても素晴らしいことだと思います。自分のがんばり具合がよくわかり、積極的に練習に取りくんでいるようです。 男児 父
- このテストは、子どもたちのために大そうよい事であると思います。最初なまけていても、その気になれば皆と同じ点をとることができる。特に、総合点を考えるとジリジリと継続的に頑張っていくべきではない。コンスタントな努力と忍耐力を養うには、正にうってつけの試みだと思います。少しばかり、100点が続いた我が子は< 10週の間まとめ >の表を見て、余り下の方にいるのでびっくりしていたようです。側で見ていて笑ってしまいました。今後の成果を期待しながら見守っていきたいと思います。 男児 父
- 漢字テストが行われるようになってから、漢字に対して積極的に取り組むようになりました。くり返しの練習によって漢字が自分のものになり、使いこなせるようになってほしいと願っております。一題まちがうと、順位が大分下になり、そんな時には子どもも残念がっておりますが、次の週は頑張ろうという気持ちがありありとわかります。その気持ちを大切にやり、順位に関してはあまりこだわっておりません。 男児 母

11 まとめと今後の課題

宿題の効能も多分にあると思うが、自主的な学習への結びつきを考えたとき、やはり（やらされる）という意識はまぬがれないであろう。それは「宿題は出さない。」という、教師の言葉にとびあがって喜ぶ児童の姿にもあらわれている。

また、子どもと学習を考えた時、いやがるからやらせないとばかりは言ってもいられない。いく

ら、嫌がってもやらせなければならないこともある。

そこで、子どもたちには強制しなくても自然の形で抵抗なく、学習の必要性を感じるものは何かということから、“挑め 996文字”に挑戦してみた。

子どもたちは、宿題がないという裏側に、そんな意図があろうなどは夢にも思わずはしゃいでいた。1年生の漢字なんて、練習しなくても書けるという安易感、10分間の練習で覚えられるという教師の暗示に支えられ、テストが開始されていった。2年、3年、4年の進出漢字に挑むころには、練習時間も伸びたことさえ気づかず次々と漢字に夢中で挑むようになった。いわゆる生活の一部となりつつあった。そのころになると、

「先生、宿題を出さないと言ったので喜んでいただけ、漢字の練習もなかなか大変だよ。」

などと話してくれる子も数人でできた。本当はそうだと思っけていても、その度ごとに、

「練習なんかしなくてもいいんだよ。」

「自分の自由でやっているんじゃないか。先生は、一度でもやれ！なんて言ったことないよ。」

と、うそぶいて言ったものである。それに対する、子どもたちの反応は、きまって

「そんなわけにはいかないよ。」

と、照れ笑いをうかべながらその場を去っていった。その胸の内には、学級の一員として自己中心的な行動がとれなくなった意識が働いていたのであろう。

- やればできるのに、やらずにできないことへの抵抗
- 友だちのがんばりを見て、じっとしてられない心情
- 満点を取ったことへの快感
- 自分の潜在能力の発見と喜び

など、子どもたちの心の支えがあったことにほかならない。そればかりか、知能も低くいわゆるできない子のレッテルに自他ともに甘んじていた子の目の輝き……………学級の一員としての存在価値すら、うすれていた子どもたちへのおどろきが、学級の『やる』というムードをかもしだしていった。

テストを媒介としての切磋琢磨は美しい。このテストに関して、我が学級におちこぼれはひとりもない。全員が、満点の体験者である。全員が、学校に来るのが楽しいと口をそろえて言ってくれる。本当に教師冥利の一語につきる。

漢字テストは漢字だけにとどまらない。これから得た自信と努力との関連、集中力が日一日と子どもたちの生活に転移していくことを願っている。このテストを始めて、4年の月日が過つが、対象3学級のどれにも、おちこぼれはいなかった。どの子の目も輝いていた。本当にありがたいことである。単純な発想ではあるが、子どもの中にひとつひとつ根づいていくことが伝わることは、教師の喜びでもあり、やらねばならない使命感への泉であることにちがいない。どんなことでもよいから、ひとりひとりの子どもに生きる工夫の必要性を痛感している現在である。

現在、算数ではスピードドリルとして、子どもたちの計算力を高めるための手立てをこうじているが、読み書きテストの発想が算数にもあるはずである。今後、その工夫を試みたいと考えている。

評

この実践は、実感に根ざした教育の実現のために、児童に漢字との出会いをとおして生き生きと取り組む学習のあり方にアプローチしようとしたものです。漢字の習得には、能力による差はないという考え方のもとに、誰でも、その必要性を自覚させ、集中して練習させることにより、それなりの成果が期待できることを実証しました。児童は、適度の緊張と胸おどる中で漢字に出会い、自己評価し、その結果から成功感、充実感を味わうことができました。また、教師や父母の温かい励ましのコメントに支えられ、更に次への挑戦の意欲をかきたてられている様子がうかがえます。

このように、児童の漢字テストへの興味・関心が高まった中で、漢字の表意性や処理のしかたに着目した指導がされたなら、一段と定着と応用力が身につくにちがいありません。